

助動詞 「なり」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり	○	なり	なり	なる	なれ	○

◇接続

終止形接続で、ラ変動詞の場合は連体形に接続

◇意味

① 伝聞「～そうだ」 ∴他の人から聞いた事柄を表す

例) 男も**なる**日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。(土佐日記)  
(男も書くという日記というものを、女も書いてみようと思つて、書くのである。)

② 推定「～ようだ」 ∴自分自身で聞いたことから推測したことを表す

例) 呼びわづらひて、笛をいとをかしく吹きすまして、過ぎぬなり。(更級日記)  
(呼びに来るのに手間取つて、笛をたいそうみごとに吹き鳴らして通り過ぎたらしい)

◇「なり」の識別

① 断定の助動詞「なり」

↓ 体言・連体形に接続している。訳したときに「～だ」という意味になる。

② 伝聞・推定の助動詞「なり」

↓ 終止形・ラ変の連体形に接続している。

訳したときに「～そうだ」という言いになる ↓ 伝聞

訳したときに「～ようだ」という言いになる ↓ 推定